

# 福島第一原発の廃炉は？・・・

## ふじしろ政夫現地視察報告

「千葉県資源エネルギー問題懇談会」で水素爆発した福島第一原発の現状を視察（10/19）。楡葉町のJビレッジから東電のバスに乗り換えて大熊町と双葉町の境にある福島第一現場へ。

楡葉町は2015年9月に避難解除しましたが7400人の人口のところまだ680人の帰還。福島第二原発のある富岡町を通り大熊町に入ると帰還困難区域なのでかつての水田は荒地に、住宅や店舗の前にはバリケードが設置され3・11のまま。第一原発の入り口の道路で2,5~4,4マイクロシーベルト/hと空間線量が上がり始めました。廃炉作業の為に毎日6000人の作業員が出入りしているとのこと。



3・11当時1・2・3号炉は運転中、地震による外部電源の喪失、その後の津波で非常電源の喪失、結果は水素爆発（1・3・4号炉）で崩壊。現状は1号炉はカバーの解体。2号炉は建屋が壊れていなので上部から解体して使用済み燃料の取り出しをするとのこと。3号炉は燃料取り出しの為にカバー設置工事。4号炉は1535本の使用済み燃料は取り出し完了。

汚染水は以前のクランチ型（ネジ留めで漏れてしまった）から溶接型のタンクの保管へ。地下水対応では、港湾に接続する海側は鋼鉄製の遮水壁を完了。陸側は1~4号炉を囲む形で凍結壁を95%作り終えたとのこと。5%は炉内と外の水位を保ってからしめるとの説明。水の流れがあるため完全に凍結できないとの新聞報道との違いはなぜ？本当に100%遮断できるのか疑問です。汚染水を処理する多核種除去施設（ALPS）3施設で750tの処理。しかしトリチウムは全く除去されず貯蔵タンクで保管中。

爆発し崩れた1号炉に近づくとバスの中で $50\mu\text{s v/h}$ 、海拔35mにある凍結用のパイプの近くでは外の空間線量は $50,6\mu\text{s v}$ 、海拔10mの近くに降りると $6,2\mu\text{s v}$ と敷地内の空間線量はバラバラです。作業員も一般の作業着であったり防護服での作業になったりの様子でした。最も線量が高いのが3号炉のそばで、 $121\mu\text{s v}\sim 160\mu\text{s v}\sim 182\mu\text{s v}\sim 248\mu\text{s v/h}$ と一気に線量が上がっていきました。ここでの作業はどの様にするのか心配になりました。4号炉の周辺は $29\mu\text{s v}$ 。そして双葉町に位置する5・6号炉に近づくと空間線量は $1,4\mu\text{s v}$ になりました。

港湾は海底を被覆する作業が行われていました。ベントナイト・山砂・コンクリでの被覆です。

廃炉にむけたロードマップは40年と言われますが「核燃料がメルトダウンししかも炉の下に流れてしまっている燃料デブリをどう取るの」と質問したら「デブリがどこにあるかも解らない」「ロボットの開発が必要なのでいつになったら廃炉ができるか分からない」との答え。

使用済み燃料も1号炉392本、2号炉615本、3号炉566本が放射能高線量の建屋の中にあるのです。福島第一原発は収束も、アンダーコントロールもされず今でも放射性物質を放出しているのに、全国の原発を再稼働しようとする政府や事業者は何を考えているのでしょうか？

崩壊した原子炉を、高線量の原発敷地中の惨状を現場で見て脱原発すべきと思われました。